



総研大ニューズレター

第 69 号 2014. 2 発行

●目次

【今月のトピックス】

- 「賀詞交換会を開催」 総務課
- 「生命共生体進化学専攻オープンキャンパスを開催」 生命共生体進化学専攻
- 「平成 25 年度学融合研究事業・公開研究報告会を開催」 学融合推進センター
- 「総研大レクチャー『学術映像の基礎ーみる・つくる 2013』第 2 部を開催」 学融合推進センター
- 「JAXA 宇宙科学研究所、イプシロン搭載宇宙科学ミッションなどの公募を開始」 宇宙科学研究所

【各種募集】

【イベント情報】

主なイベント予定

- 2 月 1 日 サイエンスカフェ「カラスなぜ鳴くの？」-カラスの鳴き声の研究-
- 2 月 3 日～4 日 平成 25 年度総研大国際シンポジウム「遺伝子と文化から明らかにする人類の多様性:アジア・オセアニアを中心に」
- 2 月 6 日～7 日 「異分野結合フォーラム」-知識結合の拠点形成に向けて-
- 2 月 8 日 平成 25 年度総研大国際シンポジウム一般公開「人類地球をうごく」
- 2 月 24 日～26 日 総合教育科目「専門基礎 AⅢ統計科学基礎」
- 2 月 26 日 学融合推進センター学内公開セミナー「科学技術コミュニケーションの実践知理解に基づくディスカッション型教育メソッドの開発」
- 2 月 26 日 学融合推進センター学内公開セミナー「強い磁場がもたらす新しい現象」
- 2 月 27 日～28 日 総合教育科目「専門基礎 AⅡ論理学基礎」

【今月のトピックス】

● 賀詞交換会を開催



平成 26 年 1 月 6 日（月）に、総合研究大学院大学平成 26 年賀詞交歓会が 1 階食堂において開催されました。開会にあたり、高畑学長より、総研大の新年に向けた抱負について挨拶がありました。参加者は終始、和やかな雰囲気の中、旧年を振り返りつつ新しい年に向けて、相互に歓談を行いました。

【文責 総務課】

● 生命共生体進化学専攻オープンキャンパスを開催

生命共生体進化学専攻は、1月10日（金）及び11日（土）の2日間にわたり葉山キャンパスにおいて、オープンキャンパスを開催いたしました。本研究科では毎年2回オープンキャンパスを開催しており、今回は4名の参加がありました。

平田学長補佐による「総研大と全学事業の紹介」、佐々木専攻長の「生命共生体進化学専攻の概要説明」から始まり、各分野の研究内容紹介やラボ見学ツアー、情報交換会などが行われました。各参加者は説明に真剣な面持ちで聞き入り、教員に熱心に質問していました。

アンケートでは「教員の方と学生の距離がかなり近いのが印象的だった」「教員の方々の専門分野が幅広いと思った」「大学院生の話が聞けてよかった」「今後の進路決定の参考になった」「教員の方と直接たくさん話ができよかった」等の感想が聞かれ、大変充実した開催となりました。

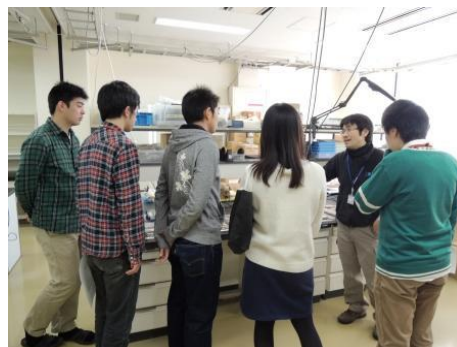
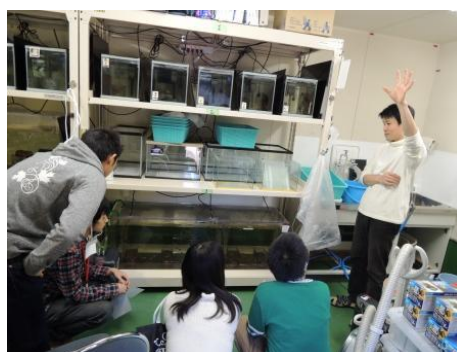
【プログラム概要】

1日目

- ・ 総研大と全学事業の紹介
- ・ 生命共生体進化学専攻の概要説明
- ・ カリキュラム・入試に関する説明
- ・ 研究内容紹介
- ・ 在学生の紹介とメッセージ
- ・ ポスター説明&情報交換会

2日目

- ・ ラボ見学ツアー



【文責 総務課】

● 平成25年度学融合研究事業・公開研究報告会を開催



学融合推進センターでは、総研大内の専攻横断的な研究を公募し、支援を行ってきました。その支援を受けた研究課題の代表者（もしくは代理研究者）が1年間の中間報告、もしくは最終報告を行う場が、公開研究報告会です。これは、研究課題の評価を行う場ではなく、他分野の研究者からのコメントが新たな気づきや展開を生み、課題研究をより発展させていくことを目的とした場です。また、参加者の交流を通して新たな融合研究の創出を目指す、出会いの場でもあります。

今年の公開研究報告会は、1月23日(木)、24日(金)に学融合推進センター1階ホールにおいて開催され、18課題について、口頭及びポスターの形式でこれまでの成果が発表されました。その内、中間報告を行うポスター発表に対しては、ポスター賞を選定しておりますが、今年度のポスター賞は参加したすべての教員による投票で決定され、比較文化学専攻の菊澤律子准教授の「手話言語学を世界へつなぐ -メディア発信とe-learning開発に向けて-」と、地域文化学専攻の野林厚志教授の「『料理』の環境文化史：生態資源の選択、収奪、消費の過程が環境に与えるインパクト」の2課題が同点1位でポスター賞に選ばれました。この2課題については、特典として次年度の研究費に25万円が加算されます。



また、今回の公開研究報告では、上記の発表の他、現在進行中の総研大研究プロジェクト企画会議の進捗状況の報告が行われ、その在り方と今後の展開に関する議論がなされました。総研大研究プロジェクト企画会議とは、総研大らしい融合研究プロジェクトの創出を目指した会議ですが、総研大内の他分野の研究を知り、交流する場としても機能してきています。次回は平成26年3月14日(金)の午後に遺伝研で行われますので、ご都合のよろしい方はぜひご参加ください。企画会議の詳細内容は学融合推進センターのホームページをご覧ください。

今年も、各基盤機関及び葉山キャンパスから50名を超える方が集まり、分野を超えた活発な議論がなされました。また、懇親会にも多くの方が参加され、研究交流という、公開研究報告会のもうひとつの目的も達成されたと思います。この研究報告会は、総研大内の様々な分野の研究者が葉山に集まり、泊りがけで交流できる数少ない機会でもありますので、これまで参加されていない方も、ぜひ来年は参加を検討してみてください。



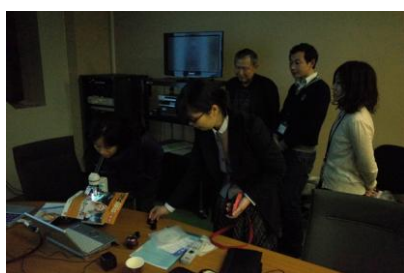
【文責 学融合推進センター 助教 塚原直樹】

● 総研大レクチャー『学術映像の基礎—みる・つくる2013』の第2部を開催

1月22日、国立民族学博物館（以下、民博）において、総研大レクチャー「学術映像の基礎—みる・つくる2013」（代表 久保正敏、以下、学術映像の基礎）の第2部が開催されました。「学術映像の基礎」は、映像の初学者を対象に2005年度から開催されており（2009年度までは「科学映像の製作理論と製作」）、第1部では撮影・編集実習を、第2部では完成作品の上映と講評を

行います。それに加え、映像を創造的に活用されている研究者を様々な分野からお招きして最新のお話をうかがいます。ちなみに、本年度は撮影実習を長野県の国立天文台野辺山にて実施させていただきました（2013年8月28日～31日）。

この度開催しました第2部では、最初に久保正敏先生（地域文化学専攻、民博）から、文化科学における学術映像の活用事例として、民博において映像制作、その保存と活用（アーカイブズ）方法について、民博で開催された科学映像祭について、ご講義いただきました。続いて、倉田智子先生（基礎生物学専攻、基礎生物学研究所、以下、基生研）からは、自然科学における学術映像の活用事例として、基生研でみずから撮影された顕微鏡映像や研究所の日常を事例にとり、撮影方法や機材の選び方について、様々な事例を挙げて詳しくお話いただきました。



以上の前半に続いて、後半では、受講生による映像の上映と講評を行いました。受講生が国立天文台野辺山で制作した作品、あるいは新たに自身の研究を映像化した作品を順に上映し、大森康宏先生（立命館大学映像学部、総研大・民博 名誉教授）と筆者が中心となり、参加者全員で講評します。受講生はいずれもビデオカメラによる映像制作は初めての経験でしたが、時間をかけて撮影・編集し、撮影対象者に対する倫理的配慮もしっかり意識することにより、素晴らしい作品を完成することができ

ました。

「学術映像の基礎」は、次年度も開催を予定していますので（現在申請中です）、関心がある方は、ぜひご参加ください。

【文責 学融合推進センター 客員研究員 村尾静二】

● JAXA 宇宙科学研究所、イプシロン搭載宇宙科学ミッションなどの公募を開始



JAXA 宇宙科学研究所は、JAXA 統合後も我が国の宇宙科学に係る学術研究の中核的な研究拠点として、これまで様々な科学衛星プロジェクトや観測ロケット、大気球実験などを大学共同利用により実施してきました。昨年は JAXA が開発した新型の固体燃料ロケット「イプシロン」ロケットに搭載された小型科学衛星シリーズの1号機である SPRINT-A 「ひさき」が軌道投入されたところであり、現在2号機の ERG 衛星の開発も進められているところです。

小型科学衛星シリーズに続いて、宇宙理学委員会・宇宙工学委員会を中心とした学術コミュニティは、将来を見据えた宇宙科学のロードマップ策定作業を進めており、小型科学衛星の成果を活用しつつイプシロンロケットを利用した公募型小型計画を、戦略的中型計画・小規模プロジェクトとともに、宇宙科学研究推進の3つの柱の一つとして定義しようと検討を進めています。

こうした状況を踏まえ、宇宙科学研究所は、公募型小型計画に発展するイプシロンロケットを打ち上げ手段として用いた世界の宇宙科学をリードする一級の科学的成果が期待される、小型の計画の公募を全国の大学等の宇宙科学のコミュニティに対して発出しました。また同時に、大学共同利用の枠組みで実施されている従来の大気球・観測ロケット実験と、イプシロンロケットを用いたプロジェクトや中・大型科学衛星プロジェクトの間を埋める小規模の宇宙科学プロジェクトについても同時に募集を開始しています。

【文責 宇宙科学研究所】

【教員・学生の受賞情報等】

- 先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 印南秀樹准教授
日本学士院「学術奨励賞」受賞
- 物理科学研究科 機能分子科学専攻 櫻井英博准教授
「平成 25 年度日本化学会学術賞」受賞
- 物理科学研究科 機能分子科学専攻 平等拓範准教授
「米国電気電子学会 (IEEE) フェロー」称号授与
- 生命科学研究所 遺伝学専攻 飯田哲史助教
第 85 回日本遺伝学会「Best Papers 賞【優秀口頭発表賞】」受賞

【編集後記】

総研大ニューズレター69号をお届けします。

2月1日(土)に、サイエンスカフェを開催し、講演者である塚原助教のわかりやすく面白い講演に、参加者は熱心に耳を傾けていました。会場の理科ハウス(逗子)は、かわいらしい内観で、科学が身近に感じられる作りとなっていました。ペットボトルに入った水、砂糖、塩、それぞれどうやって見分けるのか、考えながら正解を見つけるスタイルが、とても楽しかったです。詳しい内容は、次回ニューズレターのトピックスに掲載させて頂く予定ですので、そちらも併せてご覧ください。



【理科ハウス:逗子駅の近くにあります。】

寒い日が続き、総研大では朝に霜柱が目立つようになりました。皆さま、インフルエンザなどに注意して、厳しい年度末を乗り切って頂きたいと思います。



【サイエンスカフェのお菓子、カラスの卵と巣をイメージした力作です】

広報室 T.W

◎各専攻で教員や学生がメディアに出演が決まっている場合や、受賞や表彰等があった際にはご連絡ください。またメディア等に出演される場合は、可能な限り「総合研究大学院大学」と表記していただけますようご協力お願いします。

発行 2014年2月5日

編集



国立大学法人
総合研究大学院大学
THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES

広報委員会

神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)

広報室(担当)

TEL046-858-1500/FAX046-858-1542

©2014 SOKENDAI